看護者が身直する研究に関わる困難とその克服法

岡崎崇代
山中登志子（千葉大学）

I. 緒言：病院に就業する看護職者の多くは、看護カリキュラムの一環として院内研修を行っている。しかし、看護職者の多くは、新たな研究上の困難に直面しており、困難を克服するためには看護職者自身がその困難を客観的に理解する必要がある。

このような状況を背景に、研究上の困難を解決した研究は多数行われていた。また、これらの研究の全てが、特定の院内に就業する看護職者を対象に選択回答式質問に用いて困難を解明していた。

III. 研究方法：院内研修に従事する看護者が自ら研究上困難とその克服法を明らかにし、円滑な研究活動推進に向けた示唆を得るため、院内研究者を選択回答式質問を用いて研究方法を明示し、特性調査表を作成した。内容の妥当性は、2回のパイロットスタディを通じて確認した。3. データ収集：全国から38病院を便益的に抽出し、看護管理者から研究協力に同意を得た33病院の看護職者336名に郵送法を用いて質問紙を配布し回収した。調査期間は、2010年9月8日から12月10日であった。4. データ分析：困難」と「克服法」との関係を明らかにするため、各「困難」を乗り越えるために用いた「克服法」に該当するカテゴリーの出現回数を算出し、「困難」と「克服法」を併せ列挙するマトリックスを作成した。

V. 考察：文献との照合を通じて考察した結果、表1院内研修に従事する看護者が直面する研究上の困難を表現するカテゴリー

<table>
<thead>
<tr>
<th>カテゴリー</th>
<th>記録単位数%(%)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>①専門的知識に基づく研究の遂行</td>
<td>210(56.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>②勤務時間内外の研究時間確保</td>
<td>31(8.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>③実習者の合意獲得</td>
<td>19(5.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>④勤務時間の異なるメンバーとの研究時間調整</td>
<td>19(5.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑤関係者との研究内容周知とそれに基づく協力獲得</td>
<td>18(4.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑥研究に必要な専門的知識の理解</td>
<td>15(4.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑦スケジュールに沿った研究進行</td>
<td>12(3.2)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑧メンバー間の協力関係形成と維持</td>
<td>6(1.6)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑨指導を受ける者と指導者の機会の確保</td>
<td>6(1.6)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑩異なる価値を持つメンバーとの対等な立場での交渉</td>
<td>5(1.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑪指導内容の理解</td>
<td>5(1.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑫業務内容と研究の両立</td>
<td>5(1.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑬指導を受ける者と内容、方法、判断</td>
<td>4(1.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑭研究結果に基づく成果報告の工夫</td>
<td>4(1.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑮所属病院の制約に対する研究進行</td>
<td>3(0.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑯研究進度に対する適切性の判断</td>
<td>3(0.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑰指導者の役割分担</td>
<td>3(0.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑱研究課題に対する実践の維持</td>
<td>2(0.5)</td>
</tr>
<tr>
<td>⑲研究進展に向けての意欲の維持</td>
<td>2(0.5)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

記録単位総数 | 375(100.0)
表2 院内研究に従事する看護職者が直面する研究上の困難に対する克服法を表すカテゴリ

<table>
<thead>
<tr>
<th>カテゴリ</th>
<th>記録単位数(%)</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1) 困難克服に必要な人材を探し指導を受ける</td>
<td>223 (30.7)</td>
</tr>
<tr>
<td>2) 文献を読む時間が不足する</td>
<td>84 (11.6)</td>
</tr>
<tr>
<td>3) 困難克服に向けてメンバー同士で協力する</td>
<td>81 (11.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>4) 困難克服に必要な知識、情報を獲得する方法を学ぶ</td>
<td>71 (9.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>5) 基本性に立ちながら研究過程を進める</td>
<td>48 (6.6)</td>
</tr>
<tr>
<td>6) 研究を推進するために時間外から時間を活かす</td>
<td>45 (6.2)</td>
</tr>
<tr>
<td>7) 困难克服に必要な方法で研究に従事し、目標達成に手薄を工夫する</td>
<td>33 (4.5)</td>
</tr>
<tr>
<td>8) 研究への協力依頼内容を周知できるように活用できる機会を最大限に活用する</td>
<td>24 (3.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>9) メンバーそれぞれが自分の役割を明確に果たせるように役割分担を行う</td>
<td>22 (3.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>10) 学習の機会や研究発表の場に参加する</td>
<td>16 (2.2)</td>
</tr>
<tr>
<td>11) 基本計画した研究の過程を守る</td>
<td>15 (2.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>12) メンバー・面会を研究の推進状況を共有できるように手段を工夫する</td>
<td>13 (1.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>13) メンバー・面会が密に開催できるように上手に交渉する</td>
<td>13 (1.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>14) 研究への協力依頼内容を周知できるように活用できる機会を最大限に活用する</td>
<td>7 (1.0)</td>
</tr>
<tr>
<td>15) 研究を継続できるようにメンバー間で承認、謳唱を図る</td>
<td>6 (0.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>16) 研究を継続できるように気分を転換する</td>
<td>6 (0.8)</td>
</tr>
<tr>
<td>17) 指導者に理解できるまで説明を再解釈する</td>
<td>4 (0.5)</td>
</tr>
<tr>
<td>18) 研究に協力するように努力する</td>
<td>4 (0.5)</td>
</tr>
<tr>
<td>19) リーター判断を問う</td>
<td>3 (0.4)</td>
</tr>
<tr>
<td>20) 指導を受けた機会を有効に活用するように準備を万全に整える</td>
<td>2 (0.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>21) 研究に必要な知識の獲得に向け研修を実施する</td>
<td>2 (0.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>22) 研究を継続できるように研究法を工夫する</td>
<td>2 (0.3)</td>
</tr>
<tr>
<td>23) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>24) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>25) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>26) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>27) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>28) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>29) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>30) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>31) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>32) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>33) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
<tr>
<td>34) メンバー間の理解を深める</td>
<td>1 (0.1)</td>
</tr>
</tbody>
</table>

円滑な研究活動推進に向けて以下の示唆を得た。
なお、本文および図の丸数字、<と>に示した数字は、表1、表2中のカテゴリ番号を表す。

困難20種類のうち(5)は、いずれも研究に必要な専門的知識の修得状況に関する困難であった。これらの困難を克服するために最も多く用いられていた方法は(5)であった。

図「困難克服に必要な人材を」「克服法」を表す24カテゴリの対応

- 図1: 図「困難克服に必要な人材を」「克服法」を表す24カテゴリの対応

- 表2: 院内研究に従事する看護職者が直面する研究上の困難に対する克服法を表すカテゴリ